

第15回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成24年12月14日（金） 18時30分～20時50分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

- (1) 委 員 17名 *欠席 5名 奥田委員、酒井委員、山崎委員、
児玉委員（代理出席：佐藤氏）、中村委員（代理出席：諸橋氏）
- (2) 事務局 6名 *教育委員会企画課 高須課長、池田主幹、国方課長補佐、小口主査、
山崎主査補、安井主査補
- (3) 傍聴者 6名

4 報告・議題

- (1) 【報 告】 前回協議会について
- (2) 【議題1】 地元代表協議会だより（第3号）について
- (3) 【議題2】 千城台地区小学校の適正配置について
- (4) 【議題3】 次回開催日時・場所
- (5) 【議題4】 その他

5 会議資料

資料1：第14回千城台地区学校適正配置地元代表協議会の概要

資料2：小学校の統合・現行学区での統合シミュレーション（現行の学級編制の場合）

資料3：千城台地区小学校に在籍する児童の居住分布状況

資料4：千城台地区小・中学校の施設概要

資料5：千城台地区における「特色ある教育活動」

資料6：小学校の統合・現行学区での統合シミュレーション（35人学級編制の場合）

資料7：中学校の生徒数推計・統合シミュレーション

別 紙：地元代表協議会だより（第3号）

6 議事の概要

- (1) 【報 告】 前回協議会について

事務局が前回協議会での協議の内容について報告し、確認した。

- (2) 【議題1】 「地元代表協議会だより」について

「地元代表協議会だより（第3号）」について、事務局および氏家会長から説明を行った後、千城台地区の全世帯、小・中学校の保護者、未就学児の家庭への配布を行うことが了承された。

- (3) 【議題2】 千城台地区小学校の適正配置について

事務局が「千城台地区における『特色ある教育活動』」「小学校の統合・現行学区での統合シミュレーション（35人学級編制の場合）」「中学校の生徒数推計・統合シミュレーション」を中心に説明を行った後、協議を行った。

その結果、次回も継続審議とし、中学校の統合協議も含めて小学校の適正配置について引き続き協議を行うことが確認された。

(4) 【議題3】 次回開催日時・場所について

平成25年2月8日（金）18時30分から20時30分まで、千城台公民館で開催することとした。

(5) 【議題4】 その他

氏家会長から、「協議会だより」の今後の予定について提案があり、次回協議会でシミュレーションの方向性が決まるなど協議が進展した場合、第4号を発行することが確認された。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶（氏家会長）

事務局の配慮で、前回と同様、口の字型の話しやすい座席配置とした。本日は、今後の方向性を左右する重要な議題を協議する。十分な議論をお願いします。

(2) 報告

報告 前回協議会について

〈菅原議長〉 事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 前回協議会は10月26日に開催され、「協議の進め方」について、「会長・副会長提案」を受け、協議した。

その結果、以下の5点について、協議会として合意された。

- 1 統合時期を平成27年4月として協議を行う。
- 2 現行学区での統合を検討する。
- 3 配置においては、「子どもたちにとってのより良い教育環境」の視点を重視する。
- 4 中学校統合については今後の協議に関連して、必要に応じて行う。
- 5 事務局は随時情報収集し、地元代表協議会に情報提供を行う。

また、「千城台地区小学校に在籍する児童の居住分布状況」「千城台地区小・中学校の施設概要」「現行学区でのシミュレーション」について説明を行った後、協議を行った。その結果、本日の協議会で小学校の統合について、より具体的なシミュレーションを会長・副会長が提示し、協議していくことが確認されている。

〈菅原議長〉 今の事務局の説明については、既に議事要旨も確認・決定されているので特に意見なしでよろしいか。

〈一同〉 異議なし。

〈菅原議長〉 次に、前回協議会以降の動きについて、各委員から報告があればお願いします。

〈一同〉 特になし。

(3) 協議

議題（1）「地元代表協議会だより」について

〈菅原議長〉 はじめに、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 「地元代表協議会だより」をご覧いただきたい。次の3点を確認する。

- ① 前回協議会において、本協議会の協議の進捗状況を広く周知するため、協議会だよりを発行することが確認されている。
- ② 記述内容やレイアウトについては、氏家会長と相談の上、作成した。
- ③ 今後の配布については、千城台地区の全世帯、小・中学校の保護者、未就学児のいる家庭へ配布する予定である。

- 〈菅原議長〉 氏家会長から補足説明をお願いする。
- 〈氏家会長〉 前回協議会で確認されているが、千城台地区の全世帯、小中学校の保護者等に対して適正配置について共通理解できる明確な資料として作成した。事実に基づいてグラフや表で示している。今後、いろいろな所での説明資料としても活用していただきたい。
- 〈菅原議長〉 事務局および氏家会長から説明があったが、何か質問があるか。
- 〈加瀬委員〉 よくまとめられている。
- 〈一同〉 特になし。
- 〈菅原議長〉 では、今後の配布も含めて、これで良いか。
- 〈一同〉 異議なし。(了承)

議題(2) 千城台地区小学校の適正配置について

- 〈菅原議長〉 まず、事務局から資料の説明をお願いする。
- 〈事務局〉 資料2～4は前回提示した資料である。
資料5：千城台地区における「特色ある教育活動」については、大きく2つの項目に分けている。1つ目は「今までに行われてきた活動」、2つ目は「これから考えられる活動(案)」である。
「これから考えられる活動(案)」については、次の4つの柱から考え、提示した。
①既存の施設を活用する。
②今までの実績、協定などをベースにする。
③継続して取り組むことができる。
④小・中学校側にとっても、交流・連携する相手側にとってもメリットがある。
資料6は、全学年35人学級編制とした場合の小学校の統合シミュレーションである。
資料7は、中学校の生徒推計、統合シミュレーションである。
※(1)平成24年度の状況の資料、西中の学級数を計10→9、総計15→14に訂正する。(ホームページには修正済みの資料を掲載)
- 〈菅原議長〉 今の説明について、質問があるか。
- 〈大和久委員〉 「今までに行われてきた活動」の中で、小・中学校と大学との連携の背景には、どのような経緯があったのか。
- 〈事務局〉 最初はお互いのつながりから取り組みが始まり、現在も続いていると思われる。
また、大学側にとっては「地域貢献」という目的から、小・中学校との交流を行っているということもあるだろう。
- 〈鈴木委員〉 資料5については、この協議会とどういう関係があって示しているのか。
- 〈事務局〉 前回協議会で、委員から要望があったため、今回提示した。
- 〈鈴木委員〉 資料5にあるような「特色ある教育活動」については、学校の自主的な取り組みであり例えば、幼稚園・保育所との交流も行っている学校もある。それぞれの学校の方針により取り組んでいると思う。この協議会には各校の学校関係者は入っていないこともあり内容的にそぐわないのではないか。
- 〈氏家会長〉 この資料については、私からも事務局にお願いしたものである。統合協議をする中で、良い学校にしようと考えた場合、どのような活動ができるのか、参考として示してもらった。今までも意見として出ているが、数合わせだけになってはいけな思考えた。話し合いの流れの中での一環として、提示していることをご理解いただきたい。

〈事務局〉 ここで、前回協議会の中で要望として出された「文部科学省の教育政策の動向」について説明する。次の5点が挙げられる。

- ① 35人以下学級の推進など、学級規模の適正化を図る。
- ② 学力向上、学習意欲の向上のための支援を充実させる。
- ③ インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実を目指す。
- ④ 小学校における専科教育の充実を目指す。
- ⑤ いじめ問題の対応など、学校運営の改善充実を図る。

〈菅原議長〉 今の説明について、質問があるか。

〈一同〉 特になし。

〈菅原議長〉 続いて、前回協議会で「小学校の統合について、より具体的なシミュレーションを会長・副会長が提示し、協議していくこと」が確認されているので、氏家会長からお願いする。

〈氏家会長〉 前回協議会で「現行学区でのシミュレーションで検討する」との合意がされている。これを受けて、会長・副会長から提案する。

【提案内容】

6通りの現行学区でのシミュレーションの中、2番、1番の2案を、この順で優先案として提案する。

【提案理由】 次の5点による。

- ① 学校規模、通学、地域との結びつき等から、総合的に考えた。
- ② 統合年度とした27年度において、北小・南小の2校で全学年単学級、西小では5つ、旭小では4つの学年が単学級となることが推計され、対応する必要性が最も高い。
- ③ 2番・1番のシミュレーションでは、27～29年度はすべて複数学級となる。ただし、北小と西小の統合では、30年度に1年と3年が単学級となる。この内、1年生は26人で単学級のままの可能性が高いが、3年生は38人であり、現行の学級編制で考えるとあと1人増えれば、2学級となる可能性がある。また、35人学級編制が実施されれば同様に2学級となり、11学級となる展望がある。
- ④ 通学については、重要な検討項目として考えた。
通学距離は、確かに現在より長くなる場合があるが、最長でも2.8kmほどであり、法的な範囲4km以内に入っている。
安全確保については、通学ルートの検討、セーフティウォッチャーをはじめとして現在行われている通学時の安全確保を継続することや、地元として必要な事項を要望していくことで対応できる。
- ⑤ 中学校の統合については、まだ合意していないため、現在の2校が存続することを前提に考えた。現在の中学校区内での統合であり、地域団体との関係や活動も継続でき、影響は少ないと考える。

このような理由から、2番、1番の2案を検討いただきたい。

その後は、この2案について事務局にわかりやすくまとめてもらい、それを基に各委員が所属団体に説明し、意見を聴取してきていただき、次回協議会で報告するという流れで進めたいと考える。

- 〈菅原議長〉 会長・副会長の提案を受けて、質問も含めて協議を行う。意見がある方はお願いします。
- 〈栗山委員〉 前回協議会は欠席したが、議事録を確認すると、5番のシミュレーションで意見が一致したと認識している。1・2番のシミュレーションでは、30年度に小規模校化になるとわかっているのに、なぜ提案するのか。また、中学校は2校残すということだが納得できない。
- 〈氏家会長〉 5番のシミュレーションは、東小と旭小の2校統合、北小と西小と南小の3校統合により2校残す案である。
特に北小には特別支援学級があることから、通学距離等も考慮し北小を基点として、北小と西小の2校統合とする2番あるいは1番を考えた。
中学校については、2校を1つにするか、2校を存続するかということになるが、協議会ではまだ具体的に協議していない段階であり、まずは喫緊の課題である小学校から進めるという観点から、とりあえず現行のまま2校残す案を提案した。
- 〈栗山委員〉 北小の特別支援学級を優先すると、統合シミュレーションも限定されてしまう。2番のシミュレーションの説明で、北小と西小の統合では「30年度に3年生が後1人増えると2学級になる」ということだが、千城台地区の現状を考えると増えるのは期待できない。この2番と1番の2案に絞るのは、もう少し議論してからでないと賛成できない。
- 〈氏家会長〉 千城台地区の小学校の小規模校化が進む状況の中、喫緊の課題として現実的に早く解消できる統合案を考え、提案した。
- 〈佐々木委員〉 前回協議会では、全員5番のシミュレーションで一致したはずである。1番だと東小の卒業生は全員南中に通うこととなり、中学校の生徒数がアンバランスになる。
今までの話し合いの流れとして、①単学級は存在させないこと、②東小の中学校区のねじれを解消することの2点で進めてきたはずである。
- 〈鈴木委員〉 会長・副会長が提案をしてくれたのはありがたい。ただこの2案に絞った理由がわかりにくい。特に、なぜ「30年度に単学級が発生する」2番を選んだのか。
- 〈氏家会長〉 2番の北小と西小の統合では、30年度に1年生が26人となり単学級はやむを得ないが、3年生は38人で、もう1人増えると2学級となる。実行可能性から考えて2番としたことをご理解いただきたい。
- 〈栗山委員〉 今後、人数が増える可能性があれば良いが、現段階では考えられない。シミュレーションの段階で、単学級が発生する案はいかなものか。子どもたちのために今できることは、単学級を存続させないことである。中学校の方も生徒数・学級数の減少によってさまざまな問題が出てきていると思う。例えば、部活動を見ていると、人数が少なく練習や試合が成り立たない部もある。
- 〈土屋委員〉 部活動については、2校どうしの交流活動も考えられるのではないかと。
- 〈栗山委員〉 現実的に交流している部活動もあることは承知している。元に戻るが、小学校については「通学距離よりも、単学級を解消することを優先すること」が大事だと思う。
- 〈加瀬委員〉 今回の会長・副会長提案について、今まで協議してきた経緯が反映されていないのか。前回までの流れを汲んで進めていただきたい。北小の特別支援学級については他校に移しても良いのではないかと。2番の案では単学級が発生することになり、これまでの協議の根底が覆る。
- 〈氏家会長〉 千城台地区の実態を考えて、少しでも早く小規模校化を解消できる案が良いと考えた。
- 〈鈴木委員〉 繰り返しになるが、なぜ2番と1番のシミュレーションが良いのか、理解できない。

- 〈氏家会長〉 協議の流れから5番が良いということであれば検討し、協議会の総意として最終的に合意されれば良いと思う。会長・副会長提案は、統合時期27年4月の方向性が確認されている中で、実現可能性を優先させた。千城台地区の小学校が開校して40年以上となり、子どもたちが大人となって戻ってくる、ふるさと復帰もあるのではないかと。新しい学校を作るくらいの意欲と期待がないと進められない。子どもの数が増えるのを期待しつつ、現実的な中で当面の喫緊の課題として解消できる案を会長・副会長で絞った。
- 〈佐々木委員〉 東小の中学校区のねじれを解消する方向でお願いしたいが、中学校を2校残すとは決めていない。
- 〈多田委員〉 会長・副会長の提案は、やや唐突だったかも知れない。これまで51通りのシミュレーションを6通りまで絞った。ベストな組み合わせはないので、ベターなものを考えていくしかない。そこで、消去法で決めていってはどうか。
通学距離と学級数のバランスから考えてみると、次のようなことが言えると思う。
- 1番は、学級数のバランスが悪い。
 - 2番は、現実的に統合しやすいが、将来、単学級が発生する。
 - 3番は、学級数のバランスは良いが、通学距離が現実的ではない。
 - 4番は、学級数のバランスが悪い。
 - 5番は、学級数のバランスは良いが、北小・西小・南小の統合では通学距離が長い。
 - 6番は、現実的に統合しやすいが、通学距離が長い。
- 中学校については統合した方が良いのかどうか、まだわからない。
- 〈栗山委員〉 中学校にしては大変人数が少ない状況だと思う。部活動もある程度開設されているが、人数が少なく活動に支障をきたしているように見える。
私は5番のシミュレーションが良いと思う。そこで、1番、2番、5番のシミュレーションに絞って、各団体で持ち帰って、検討してみようか。
- 〈氏家会長〉 3番のシミュレーションは、中学校を2校残すとした場合、同じ小学校区内に位置することになってしまう。4番・5番のシミュレーションは、通学距離が長くなってしまいう等、いろいろな面から考えて、2番と1番のシミュレーションを提案した。
- 〈高野委員〉 2番のシミュレーションでは単学級が発生してしまうことが納得できない。1番・2番のシミュレーションでは、中学校を2校残すということだが、まずは中学校の統合について協議するのが良いのではないかと。2番のシミュレーションについて、事務局はどう考えているのか。単学級が発生してしまうことに対してはどうか。
- 〈事務局〉 数字的には資料のとおりである。
「複数学級が良い」ということで説明してきた。
- 〈高野委員〉 他の先行地区では、単学級になる統合はあったのか。
- 〈事務局〉 花見川地区では、5校の中で2校の小学校を統合する方向で現在協議中である。将来、単学級が発生する学年が推計されているが、統合する方向で協議している。まず、組み合わせを先に決めてから、統合時期、統合場所の順に検討している状況である。
- 〈大和久委員〉 いろいろな面から意見が出て、充実した話し合いとなったと思う。小学校の統合については、中学校の統合も大変関わっている。南中の部活動の状況が意見として出ていたが、西中も同じ状況であると思う。まずは、以前に確認した①単学級をつくらないこと②東小の中学校区のねじれを解消することを考えていくべきである。
- 〈佐々木委員〉 1番・2番のシミュレーションでは、東小の卒業生は全員南中に行くことになるので西中が少なくなり、中学校の生徒数・学級数のバランスが悪くなってしまふ。

- 〈氏家会長〉 現在の学区のまま、運用されている中で考え、実現可能性を重視した。
- 〈石原委員〉 5番のシミュレーションは良いと思う。他の案にしても「単学級をなくす」のが目的だがどこかに単学級が出てしまうのは仕方がないのでないか。もともと単学級の学校が多い現状である。
- 中学校については、以前に西中と南中の野球部で親睦試合を行ったことがある。どちらも1年生が大変少ない状況であった。このように、部員の少ない部活動、部員の多い部活動があるなどバランスが悪い現状がある。まずは、統合した場合についても、実現できることから考えていくことが大切であると思う。
- 〈諸橋氏〉 1番・2番のシミュレーションは中学校を2校残した場合であるが、中学校を統合した場合は他の案も生きてくる。中学校の協議を先に行うことが良いのではないか。
- 〈來住委員〉 1番・2番のシミュレーションについては、一番理想ではないかと思う。ただ、2番のシミュレーションは単学級が発生してしまうのはいかがかと思う。
- 中学校の部活動については、その部活動の経験がない先生方が顧問をしていることが多いと感じる。練習などを見ていると基礎的・基本的な活動ができていない。
- 統合して先生方を増やしていくのが良いと思う。中学校の統合も考えたほうが良い。
- 〈栗山委員〉 統合することにより学級数も増え、学級数に合わせて先生方も増える。
- 〈佐々木委員〉 良い先生が増える可能性が出てくる。
- 〈大和久委員〉 良い先生が増え、資料5のような内容を考えていければ良いと思う。
- 〈石原委員〉 先ほども述べたが、野球部の交流練習なども実際に行っている。現在でも先生方は一生懸命であることは付け加えたい。
- 〈大澤委員〉 熱い議論ができたと思う。会長・副会長案は理想的ではないか。ただ、2番のシミュレーションで単学級が発生してしまうことに対しては、先ほどから出ている意見と同じ考えである。
- 〈佐々木委員〉 2番のシミュレーションは、学級数のバランスも悪い。
- 〈栗山委員〉 学級数のバランスが良い案から考えてみてはどうか。
- 〈鶴岡委員〉 単学級になってしまうと、運動会等の学校行事を運営する観点からもあまり良くない。
- 2番のシミュレーションも良いが、これから児童が増える可能性は考えにくいので、単学級が発生してしまうと思う。そういうことを考えると、ある程度の学級数を見込んだ5番のシミュレーションが良いと考える。まず中学校の協議を先に行ってから、小学校の統合を考えると絞れてくるのではないか。
- 〈菅原議長〉 事務局から何かあるか。
- 〈事務局〉 次回も継続審議とし、中学校の統合協議も含めて小学校の統合について検討することではいかか。
- 〈一同〉 異議なし。(了承)
- 〈事務局〉 次回の資料については、議事要旨(案)の修正確認時に、要望があれば出していただきたい。

議題（３）次回の開催日時と場所について

- 〈事務局〉 今までは2か月に1回のペースで了承されており、また、今年度あと2回開催すると考えると、2月1日（金）か2月8日（金）でいかがか。
- 〈一同〉 2月8日（金）が良い。
- 〈菅原議長〉 次回は2月8日（金）18：30から、千城台公民館で開催する。

議題（４）その他

- 〈菅原議長〉 各委員から何かあるか。
- 〈氏家会長〉 「協議会だより」の今後の予定について提案したい。今回第3号の配布が了承されたが今後も継続して発行し、周知を図っていきたいと考える。
具体的には、次回協議会で小学校の統合シミュレーションの方向性が定まった場合は、第4号を発行していきたいと考える。中学校の統合協議も含めて十分に検討されることとなるので、次回協議会の協議結果によるが、よろしくお願ひしたい。
- 〈菅原議長〉 氏家会長から提案があったが、いかがか。
- 〈一同〉 異議なし。（了承）

（４）連絡

- ・次回協議会は2月8日（金）18：30～20：30、千城台公民館で開催する。
欠席する場合は、事前に事務局に連絡をお願いしたい。
- ・本日の議事要旨（案）を作成し郵送するので、確認をお願いする。
その際、次回協議会で提示を要望する資料等があれば知らせていただきたい。

（５）会長挨拶（氏家会長）

- ・長時間の協議に感謝する。